

コード No.

提出日：令和 4 年 3 月 日

令和 3 年度

「海外活動モニタリングの再開ならびに

市民への活動成果の情報発信・啓もう活動」報告書

一般社団法人シェア・ザ・プラネット

筒井 哲朗

1. プログラムの目的

過去1年半以上にわたるコロナウィルス蔓延による活動の停滞からの脱却に向け海外・国内において下記2つの事業を展開する。

① 海外活動のモニタリング再開

1-1. オンラインによるモニタリング

現在現地パートナーとのやり取りは主に SNS やネット通話、Zoom により実施している。しかし、Zoom は代表が非常勤講師として勤める大学のアカウントを利用しており、2021 年度下半期からは大学での講義を取りやめ活動に専念するため、新たに Zoom 有料アカウントを取得し、現地とのより綿密な進捗の確認と活動実施管理を行う。

1-2. 海外渡航によるモニタリングの再開に向けて

現在海外(バングラデシュ)で実施している事業は3件(うち1件は年内終了予定)あり、2022 年 1 月より JICA 草の根事業を新たに開始することになっている。事業の終了時の評価ならびに実施中のモニタリング、開始する事業のオリエンテーションや関係諸機関との打ち合わせなどをオンラインではなく、実際に訪問して実施する予定。コロナの蔓延がやや落ち着いている時期を見計らい渡航を実施する。

② 市民への活動成果の情報発信・啓もう活動

申請団体は、これまで自己資金獲得ならびに活動参加協力者の拡大には力を入れてこなかった。これは、団体設立直後は受託事業や事業実施により集中して業務を遂行すべきと判断していたからである。設立後7年が経過し、収益事業や助成金でおおむね財政的に運営が可能になってきた。そこで、今後は with コロナを念頭に活動成果の発信と市民への啓もうの一環としての広報と開発教育的な事業の実施をオンライン/対面それぞれを実施する。

具体的には、2021 年下半期に以下の企画を計画している。

2-1. バングラデシュの学生の描いた作品展とワークショップ

バングラデシュの小中学生が描いた絵画、「テーマ：2050 年の地球」15 点のインスタグラムを使った展示、また絵画展と絵画を用いた「フォトランゲージ（開発教育の手法）」を用いた参加者へのワークショップ実施による異文化理解講座の実施（11,12 月 2～4 回実施予定）

2-2. イスラム教を学ぶ

アフガニスタンのタリバンによる新政権やバングラデシュのロヒンギヤの難民問題で昨今話題に上ることが多い「イスラム教」について主に大学生の視点から学んでいく連続講座を企画(全3回程度)。代々木にあるジャーミイモスクを訪問し、イスラム教の教えを学ぶほか、現地(トルコ)の人が食べる料理の試食。イスラム教への誤解や知らないことによる「怖さ」を払しょくすることを目的に大学生インターンが同世代の若者向けのイベントを企画実施する。

2. 主な活動内容・スケジュール

2021年	10月	国内啓もう活動企画計画 Zoom オンラインミーティング(国内・海外) NGOによる住民主体型プロジェクト形成・実施のための方法論と技能(4月から継続:柳下)
	11月	海外モニタリング出張(11/10~12/2)、Zoom オンライン会合 国内啓もう事業実施(絵画:11/9, 11/14.以降オミクロン株蔓延により延期)
	12月	海外モニタリング出張帰国(コロナ待機 12/2~12/16) 市場志向型農業振興(SHEP)~SHEPアプローチの考え方理解と実践方法の検討~JICA 研修(柳下) Zoom オンラインミーティング(国内・海外) 国内啓もう事業打ち合わせ(ジャーミイモスク)
2022年	1月	グットガバナンス認証に向けた組織内規定の整備 Zoom オンラインミーティング(国内・海外)、
	2月	国内啓もう事業実施(絵画・イスラム)、 グットガバナンス認証に向けた組織内整備(2/25、外部評価実施) Zoom オンラインミーティング(国内・海外)
	3月	Zoom オンラインミーティング(国内・海外)、報告書作成

① 海外活動のモニタリング再開

1-1. オンラインによるモニタリング

2022年3月時点で、大学のZoomアカウントのライセンスは切れていないことから、新たにアカウントを取得する必要がなかった。現地とはZoomを使った打ち合わせや活動報告を随時実施している。

1-2. 海外渡航によるモニタリングの再開に向けて

2021年11月10日から12月9日までバングラデシュへ渡航しモニタリングを行う予定だったが、期中日本でオミクロン株が見つかり、空港の検疫が厳しくなる(あるいは閉まる)可能性があるかと判断し、帰国を切り上げ12月2日に帰国。ホテルでの隔離はなかったものの事務所で2週間の自主隔離を行った(現地での出張報告は別添)。

② 市民への活動成果の情報発信・啓もう活動

2-1. バングラデシュの学生の描いた作品展とワークショップ

11月9日(川越)、11月14日(所沢)で子どもたちを対象としたワークショップをインターン

2名とボランティア1名で実施した。またその時の様子を含めたビデオ活動報告を制作した。

2-2. イスラム教を学ぶ

イベント実施に向け代々木上原にあるジャーミイモスクと交渉を行っていたが、オミクロン株の流行により延期した。4月以降再度実施の可能性をさぐる。

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



国立稲作研究所 (IRRI, KRF, ASED との会合)



BARCIK(ローカル NGO)での会議



BARCIK の活動見学(農民による昨年度の計画と報告について聞き取り)



バングラデシュの子どもたちが描いた絵を使ったワークショップと描いた子どもたちの学校訪問 (ASED Habigonj と)



4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

この間の活動をインターン2名が映像にしました。

<http://sharetheplanet.jp/?p=1255>

また、現地 NGO が地球環境基金の支援によって活動した報告ビデオが下記で見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=dBnKJAc0uw&feature=youtu.be>

5. 今後の課題

今回はコロナウィルス第5波が下火になり、6波が来るちょうどその間に訪問できたのは幸いであった。今後今のオミクロン株が終息に向かい、訪問が可能になるまでは引き続きオンラインで現地とはやり取りを進めていく。今回の出張では後半の南西部地域の訪問ができなかったため、新規事業の作り込みなどオンラインならびに次回訪問時に進めていく。

4月からは新しいインターンも募集し、モスク訪問などをコロナの状況を見ながら再度企画する予定である。

以上